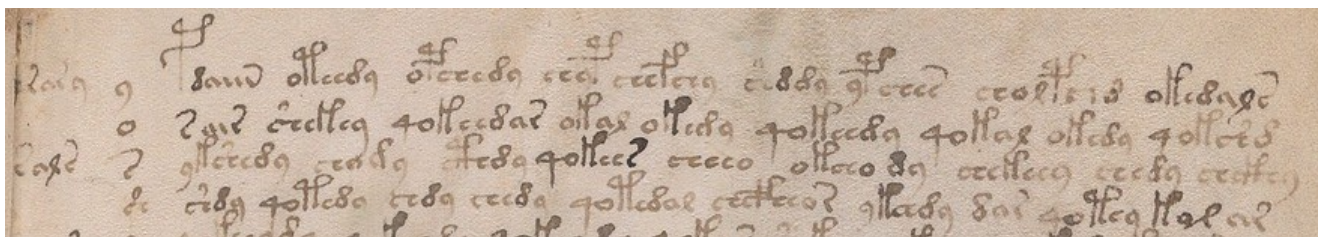


このページは書式構造や文字が解りづらいです。上から4行分を見てみましょう。



rarb	b	psand dafsttsb dapaatsb aabp atgaab bassb bpaatk aadaumpaas daqtsaumk
周の誕生	人	僅かな国土のダフツツ国やダブアアト国やバス国は交易の方向で、 幾らかの家に交易が集まり、統治の指導者は後だった。
da	kair batqtb nadaqttsar daqata daqtsb nadaqttsb nadaqata daqtsb nadaqbas	
小		購入した多くの小国は、統治されていないボスが自立希望なのは、ダクト国や ナダクツツ国だった。自立希望の無いダクト国には無自立が集まった。
kaumk	k	bqbatsb aadasb fasb nadaqtk aattda daqaadasb aatqttb aatsb aaqab
領地の後	後	ブクバツト国・アアダ国・フア国は無統治の方向で小さく加えられた。 ダクアアダ国は小国を加え、アアト国は人が離れた。
ba	basb nadaftsb aasb aatsb nadaftsaum aagatdar bqaasb sar nadaftb qaumar	
沿		バア国、ナダフト国、アア国は、貧しくない集まりが希望だった。 幾らか農地を離したブクアア国のボスは貧しくない人で小さな希望は土地だった。

(他の本文は省略)

本文の左下に文字と挿絵があります。この部分は原本の時から有ったのでしょうか疑問です。



dafaat dasand aafb bqttkaatz  
何時もの事では無い争いで合流し、古くない方法で一緒になった。

この行の単語区切りを別に考えると、次の様にもなります。☿は強調されています。

dafaa tda sand aafb bqar k aat z  
永くない争いは、人を混ぜ、古い土地の後に成り立つ。

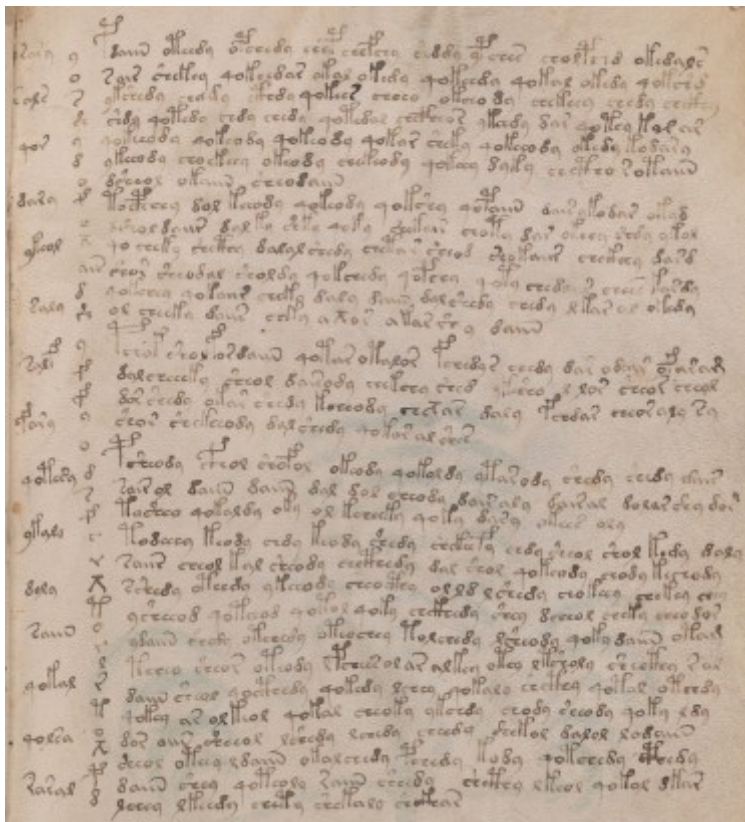
さらに別に解説すると

dafaat da sand aafb bq ar aatz  
古くない種と土を混ぜて、古くなってから塗ると幾らか納まる。

このように判断すると、挿絵の様に何らかの腹痛への湿布薬の様にも考えられます。

図の横に、他国語で何か説明が書かれ、  
この他言語は手稿最後の筆者一覧の文字とよく似ています。

上記の様に一部解読して、何年か経ちました。  
そこでふと思いついたのは、この各文の初めにある単語と単字に付てです。



まず単語列で文を作りました。意味があるでしょうか。

rarb kaumk nadar sarb bqtdaum kaumb kaumg  
garb nadaftkb bqaumb sdaumb  
kand nadaqaum nadaumka raraum

(訳文)  
周りが生まれ、領地の後、農地がなく集まってできた古くない家は領地の人は領地の外とした。  
外で生まれ、貧しくない事を守り、古い希望の人は集まって家の人となった。  
しかしながら無自立希望で家が無い為に周りの土地が希望だった。

次は単字列です。本文は3 2行で単字は3 4個ですので、本文と直接の繋がりはないようです。

b da k ba b s da g w va air s ba b g g b da s k g a ne va f da ne um r f da va p s

(文章化)

b dak bab s dag w va air s bab g gb das  
k ga ne va fda ne  
ta r fda va ps

(訳文)

人は強い領土に集まり、遠くまで移動する。側の場所に集まり領土から外の地方へ出入りする。  
後に、外が大きいと元に戻る。傍の豊かさが小さいと元に戻り、  
しばらくして周りの豊かさが少ないと傍に僅かに集まる。